

決算のお知らせと今後の対応について

7月14日に開催した組合会で令和4年度決算が承認されるとともに、今後の保険料率の対応等について説明していますので、その概要をお知らせします。

決算の概要

1 健康保険の決算

健康保険の料率
健康保険の料率は、高齢者医療制度への負担金（以下、納付金）などの増大に対応するため、平成23年度〜25年度に連年20%の引き上げを実施して78%としてから9年間据え置きとしています。

経常収入

経常収入は、被保険者数の減少等により、保険料収入が前年度に比べて▲3.1億円減少したため、131.4億円と前年度比▲3.1億円の減少となりました。

経常支出

経常支出は、139.6億円と前年度比▲4.9億円減少しました。
なお、内訳は次のとおりです。

- 1 健保組合を運営するための事務費は、0.7億円と前年度に比べて僅かに減少しました。
- 2 保険給付費は、総額69.7億円と前年度比+3.3億円（+5.0%）増加し、被保険者1人当たりの給付費についても前年度比+8.0%増加しました。

経常収支および総合収支

経常収入から経常支出を差し引いた経

常収支は、前年度比で+1.8億円改善して、▲8.2億円の赤字となりました。経常収支に経常外収支を加算した総合収支（別途積立金の繰入を除く）は、▲6.0億円の赤字となりました。

内部留保

総合収支の決算残金は、所要の繰越処理を行い、残額を繰越剰余金となる「別途積立金」として積み立てますが、令和4年度は総合収支（別途積立金の繰入を除く）が赤字のため、「別途積立金」は前年度比▲6.0億円減少して27.4億円となりました。

また、「法定準備金」は前年度同額の27.8億円となりました。

2 介護保険の決算

介護保険は、保険料率を18.4%のまま据え置きとしています。
保険料収入は21.3億円と前年度比▲0.3億円減少し、納付金は20.1億円と前年度比▲0.5億円減少しました。このため、その他の収支を含めた収支差額は、前年度に比べ+0.2億円増加して1.2億円の黒字となりました。
この結果、「介護準備金」の期末残高は5.1億円と前年度に比べ+1.2億円増加しました。

1 健康保険の対応

健康保険の主要な支出項目である納付金や保険給付費は、高齢化や先端医療の

3 納付金は、総額59.9億円と前年度比▲8.1億円（▲11.9%）減少しました。これは、前々年度の新型コロナウイルス感染症拡大による高齢者医療費減の精算戻り等の影響により、一時的に納付金が減少したためです。前期高齢者（65〜74歳）納付金は23.2億円と前年度比▲6.1億円（▲20.9%）減少、後期高齢者（75歳以上）支援金は36.8億円と前年度比▲2.0億円（▲5.1%）減少、退職者給付拠出金は0.1億円と前年度比ほぼ横ばいでした。

4 各健保組合の独自事業である保健事業費は、総額9.2億円と前年度比▲0.1億円（▲1.3%）減少しました。当健保組合は従来から健診等の疾病予防事業に資源を集中しており、特定健診・特定保健指導、データヘルス計画について着実に取組を推進しました。

高度化を背景に今後も増加することが避けられない状況になっています。

平成29年度以降、当健保組合の経常収支は赤字が続いており、内部留保である別途積立金を取り崩して対応してきましたが、令和5年度も健康保険の料率を78%で据え置いた場合は厳しい財政状況になることが見込まれたため、令和5年度に料率を86%（+8%）に引き上げました。

令和6年度は料率を86%のまま据え置く見込みです。令和7年度以降、収支がさらに悪化していく場合には料率の引き上げが必要を見通しています。料率引き上げを実施する場合は引き上げ幅については、諸情勢を的確に把握して慎重に検討を進めてまいります。

2 介護保険の対応

介護保険は健保組合が国に代わって保険料を徴収し、介護納付金として国に納付するものであることから、介護保険の料率については、各年度の必要料率を確保することを基本としています。

介護保険は高齢化が進むことにより今後負担が増加する見込みのため、現時点では令和6年度に料率を18.8%（+0.4%）に引き上げる方向で検討しています。

今後も納付金の負担増や医療費の増加など、健保組合にとって厳しい環境が続くものと思われれます。健康保険、介護保険とも適切に納得感のある料率水準となるよう検討してまいりますので、ご協力よろしくお願いたします。

（単位：億円、%）

健康保険 収支（前年度比較）						令和5年度見込
主要項目	令和3年度	令和4年度	対前年度増減額	対前年度増減率		令和5年度見込
(+) 保険料 (保険料率) (78.0%)	134.3	131.2	▲3.1	▲2.3	143.8	(86.0%)
経常収入	134.5	131.4	▲3.1	▲2.3	144.1	
(-) 事務費	0.7	0.7	▲0.0	▲2.1	1.0	
(-) 保険給付費 (被保険者1人当たり:千円)	66.4	69.7	3.3	5.0	71.9	(283.6)
(-) 納付金 (拠出金) (前期高齢者納付金) (後期高齢者支援金) (退職者給付拠出金)	68.0	59.9	▲8.1	▲11.9	63.2	(25.0) (38.2) (0.0)
(-) 保健事業費	9.3	9.2	▲0.1	▲1.3	9.9	
経常支出	144.5	139.6	▲4.9	▲3.4	146.1	
経常収支	▲10.1	▲8.2	1.8	▲	▲2.0	

<経常外収支>					
	令和3年度実績①	令和4年度実績②	増加額②-①	増加率②/①	
(+) 別途積立金繰入	15.0	15.0	0.0	0.0	18.0
(+) 財政調整事業交付金	2.1	1.7	▲0.4	▲20.8	1.4
(+) 高齢者医療助成金他	0.9	0.5	▲0.4	▲39.8	0.6

総合収支	8.0	9.0	1.0	12.7	17.9
総合収支 (除①別積繰入)	▲7.0	▲6.0	1.0	—	▲0.1

*増減額および増減率は、単位未満の数値を含めて計算した結果を四捨五入して表記しています。

健康保険 組合状況				
年度	令和3年度	令和4年度	増減	
健康保険料率	78.0%	78.0%	—	
被保険者数(3月末)	25,963人	25,317人	▲646人	
被扶養者数(3月末)	16,864人	16,052人	▲812人	
扶養率	0.65人	0.63人	▲0.02人	
被保険者平均年齢	44.23歳	44.84歳	+0.61歳	
標準報酬月額(年間平均)	404,780円	409,222円	+4,442円	
総標準賞与額(年間合計)	502億円	487億円	▲15億円	

健康保険 経常収支差引額と内部留保残高の推移						
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度見込	令和5年度見込
経常収支差引額	▲0.9	▲4.3	▲0.3	▲10.1	▲8.2	▲2.0
<内部留保>						
法定準備金残高	27.8	27.8	27.8	27.8	27.8	27.8
別途積立金残高	39.0	37.8	40.5	33.5	27.4	27.3

介護保険 収支（前年度比較）					
	令和3年度実績①	令和4年度実績②	増加額②-①	増加率②/①	
保険料率	18.4%	18.4%	0.0%	0.0	
(+) 介護保険収入	21.7	21.3	▲0.3	▲1.6	
(-) 介護納付金	20.6	20.1	▲0.5	▲2.5	
(±) その他	▲0.0	▲0.0	0.0	—	
収支差額	1.0	1.2	0.2	—	
介護準備金(積立率)	3.8 (230%)	5.1 (298%)	1.2 (68%)	31.5	—

歯科医師に質問！ 健口ポイント！

監修 魚田 真弘 (エンパシーデンタルクリニック 院長)

Q どんな歯みがき剤を選ぶといいですか？

A 自分の口の中の環境に合わない歯みがき剤を使うと、お口の健康状態をかえて悪くすることがあります。歯みがき剤の種類や特徴を知り、現在の口内環境や目的に合わせて適切な歯みがき剤を選びましょう。どの歯みがき剤を選んだらいいのかわからないときは歯科医師に相談してみましょう。

歯みがき剤選びのポイント

むし歯を予防したいとき

高濃度のフッ化物が配合されているものがおすすめ。使い続けることで歯を丈夫にする効果も期待できる。強すぎる研磨剤は、歯の表面を傷つけて知覚過敏になることがあり注意が必要。

歯周病を予防したいとき

抗炎症成分が入っていたり、血行促進作用があるもの、殺菌力の高いものがおすすめ。

ホワイトニングしたいとき

歯みがき剤のホワイトニングは、着色汚れを落とし歯の本来の色に戻すもの。さらに白くしたい場合は、歯科医院でホワイトニングを。

歯根部のケアをしたいとき

歯くきがやせて歯根部が露出してしまった場合は、研磨剤の入っていないジェルタイプがおすすめ。歯根は虫歯になりやすいため、高濃度のフッ化物が入っているものを選ぶとよい。

電動歯ブラシで使用する歯みがき剤は？

電動歯ブラシを使っている場合は、研磨剤入りの歯みがき剤に注意しましょう。お使いの電動歯ブラシの説明書をよく確認して、歯みがき剤を選びましょう。

